

姉妹城都市50周年

今年、昭和41年に高松市と彦根市が「姉妹城都市」の協定を締結して50周年の節目の年に当たります。この縁組は、幕末の彦根城主井伊直弼（いいなおすけ）の息女千代姫（ちよひめ）が第11代高松城主松平頼聰（まつだいらよりとし）公の奥方として輿入れした史実を背景に、全国初の城と城との提携をして観光振興に役立てようと結ばれたものです。そして、彦根市が仲立ちをして高松市と水戸市が昭和49年に「親善都市」の提携を行いました。高松松平藩の初代藩主松平頼重（よりしげ）公が水戸徳川家から来られた歴史的なつながりを背景としたものです。水戸市と彦根市も、安政の大獄や桜田門外の変以来の敵対した関係にあったわだかまりを超え、明治100年に当たる昭和43年を機に「親善都市」の盟約を結んでいます。このように高松市と彦根市が「姉妹城都市」、彦根市と水戸市、水戸市と高松市が「親善都市」の関係にあり、歴史上様々な絡みを持ったこの三市で毎年持ち回りの「観光と物産展」を開催するなど、活発な交流を行ってきています。

ところで、姉妹城都市協定締結の元となった松平頼聰公と千代姫のご結婚の歴史を紐解いてみると、激動の時代に翻弄された史実が伺えます。千代姫が頼聰公に嫁いたのが安政5年（1858年）4月。その2年後の万延元年（1860年）3月に大老井伊直弼が桜田門外の変で水戸藩士に暗殺されます。この事件が元で、井伊家とともに松平家にも謹慎などの処分が下り、文久3年（1863年）わずか5年の結婚生活で千代姫は松平家を去り、彦根に戻されました。しかし、明治維新を経て、明治5年（1872年）二人は復縁します。その9年の間、お互いに独り身を通されたお二人。深い愛と強い絆に結ばれていたに相違ありません。再婚された後は、三十余年を仲睦まじく、穏やかに暮らされたということです。

本市では、姉妹城都市提携50周年を記念して、記念式典などの開催を予定しております。また、民間においても、頼聰公と千代姫の物語が短編オペラとして上演されるとともに、7月上旬には、彦根市と高松市の間で特別列車を走らせて婚活イベントを行おうという話も実現しそうです。

まさに「都市に歴史あり」です。それを大切にしながら、交流を充実していきたいと思います。